【模範解答】

私が「紋切型でない言葉」と出会ったのは、私の結婚式で友人が祝電をくれたときである。友人は Google 検索で見つけた『祝電のテンプレート集』を印刷し、それを式場へと送付していたそうだが、前日になって「俺っぽくないな」と感じ、自分で考えた祝電へと差し替えをお願いしたそうだ。そんな友人からもらった祝電の内容が以下のとおりである。「独身の俺からすると、お前が結婚するまで『なんで人と人が結婚するのか』分からなかった。子どもの面倒も見なきゃいけないし、仕事も簡単に辞められない、そのほか介護・家族関係でも法律上の制約がいっぱいあって、損ばかりだなって。でも、この前結婚する２人の写真を送ってくれただろ？あれ見てたら『あぁ、この人とだったら損してみたい』って思えるから結婚するんだろうなって思ったよ。俺もいつかそんな人見つけるからな！」。

上で述べた友人の祝電は「損する」や「結婚する」といった紋切型以上の紋切型の言葉（共通語）を基にして構成されている。しかし、自分の肉声で普通にしゃべるように書かれ、自分が生まれた時から聞いてきた言葉を突き進んだ結果、「『この人とだったら損してみたい』って思えるから結婚する」という、およそ他人の声から聞こえてこないような言葉を見出している。だからこそ、友人からもらった祝電の文章は「紋切型でない言葉」であると言え、真摯に私へ向き合おうとする誠実さが感じられるのだろう。

（５９３字）

Copyright © おかまるブログ／おかまる CH　All Rights Reserved.

出典【おかまるブログ】：http://okamaru.net/